

令和7年度

教科の観点別評価及び評定の出し方

1 各教科の学習の記録

◎観点別学習状況の評価は、中学校学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、3観点が定められています。その実現の状況を観点ごとに、目標に準拠した評価（学習指導要領に示されている目標に照らしてその実施状況をみる評価）により3段階で表します。

- ・「A」=十分満足できる
- ・「B」=おおむね満足できる
- ・「C」=努力を要する

◎評定は、観点別学習状況評価を総括し、5段階で表しています。

- ・「5」=十分満足ができると判断されるもののうち、特に程度が高いもの
- ・「4」=十分満足ができると判断されるもの
- ・「3」=おおむね満足ができると判断されるもの
- ・「2」=努力を要すると判断されるもの
- ・「1」=一層努力を要すると判断されるもの

2 観点別評価と具体例

観点	具体例
「知識・技能」	<ul style="list-style-type: none">・事実的な知識の習得・知識の概念的な理解・知識や技能を用いる場面の設定など
「思考力・判断力・表現力」	<ul style="list-style-type: none">・論述やレポートの作成や発表、話し合い。・問題、課題解決の場面の設定など。・生徒の表現活動など
「主体的に学習に取り組む態度」	<ul style="list-style-type: none">・ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等の状況把握など

3 観点別評価と評定の関係

観点別評価	A	A	A	A	A	B	A	B	B	C
	A	A	A	B	B	B	C	B	C	C
	A	B	C	B	C	B	C	C	C	C
5段階評定	5 または 4	5 または 4	4 または 3	4 または 3	3	3	3 または 2	3 または 2	2 または 1	2 または 1